

現代青年の生活意識における自己疎外の構造(Ⅰ)

—— 「自己を疎外する行為」に関する質問紙の検討 ——

The Structure of Self-Alienation in Life-Consciousness of Contemporary Adolescents (I)

—— The Investigation of Questionnaire on “Self-Alienation Act ” ——

神永 典郎*・安香 宏

*現在、茨城県土浦市土浦第一中学校

1 はじめに

現代の社会構造は複雑で多様なものとなりつつあり、このような現代社会に生きる私たちにとっては、自己がその主体性を保とうとしながらも、自己のなす行為において、種々の社会的要因からの影響を受けている。一人の個人が自己の人格を形成していく過程において、個人をとりまく社会的要因は、その個人が意識するとしないにかかわらず社会的圧力として働いてくる。「社会的圧力 (social pressure)」という概念は、実験社会心理学の中心課題として今日まで数多くの研究がなされてきた。そこでは、個の存在する環境といった外的条件からの影響という視点がとられてきた。一方、個における意識世界においては、自己の存在する状況をとらえ、主体的に状況へかかわっていく能動的な側面も存在する¹。社会的圧力というとき、我々はよく社会の中にある個人を受動的な存在としてとらえてしまいがちであるが、「させられた」という行為や、あるいは意識してはいなかったが「させられてしまった」という行為だけでなく、自らが主体的に「している」行為においても、自己の下す判断の中で社会的要因をその意識の有無にかかわらず考慮し、その影響を受けている。その意味で「社会的圧力の影響」というとき、個人が、単に社会的要因を受動的に受け入れている状態をさすだけでなく、自らが積極的に情報を取り入れ、主体的に判断し行動をしていると意識している場合においても、社会的圧力の影響を受けていると考える。

個の行為はすべて、個をとりまく生活世界の受けとめの上に成り立っている。そしてその受けとめと行動とは、状況との相互作用の中に存在し、その結果は個の認識の枠組みへと再体制化されていく。

自己の人格を形成していく過程で取り入れていく社会的要因の価値づけにおいて、自らが主体的・創造的に行為するために取り入れたものが、個の意識できる範囲を越えたところでその価値基準に画一化が起こってきているとしたら、行為の結果として個に戻されてくるのは、自己の主体的な存在を自らの手で否定してしまっている状態にほかならない。そうした行為の例として、E.Frommは、人間存在の根本問題にかかわる「愛」の問題において、愛の関係が商品や労働市場を支配しているのと同じ交換の形に従っていることを指摘している²。そこでは自己の「性」を他のものより高く交換できる商品価値を持ったものにしようとする「性の商品化」が行われている。こうした人間自身の商品化という現象は、すでにK.Marxによって指摘されているところである。彼は人間と人間の多種多様な生産物との関係が、ある社会的な諸要求の充足を願いながら、物化と物神崇拜の下に、社会機構の支配法則の中で人間の意図しな

った仕方で作用し、その力が人間を脅かし支配していくとした。そしてそうした状態を「疎外」と呼んでいる⁵。

ところが、「疎外」の心理学的研究においては、必ずしもK. Marxの指摘するような客観的な疎外状況を取り扱ってこなかった。むしろ心理学では、個人に認知された行動的な環境を問題にするということで、客観的、物理的に存在する環境を扱うことを排除してきている⁶。しかしながら、現代社会が、D. Riesmanが「他者指向」社会として指摘するような社会であるとするなら、そこでは内在化された権威ではなく、同世代人や仲間、友人、マス・メディア、世論といった匿名の権威によって個人が動かされていることになる⁵。そうした見えざる手の中で生きる人間のありようをとらえようとするとき、個人の認知した主観的な疎外感情だけを扱っているだけでは、実態を的確に把握することにはならないと考えた。

このように「疎外」を個の生きる状況という視点からのとらえ方は、「疎外」という語の原義である「狂った」という意味からも妥当であろうと考える。「狂気」という状態は、個が自分自身で自分自身の行為をどうすることもできなくて、自己という範囲をこえたものとして、かえって自分に逆らう異質な力となるような人間の状態を指すことになる。このような観点に立つものとして上田は「自己疎外」を次のように定義している。すなわち「自己疎外とは、外部の権威や人気、あるいはこれらと呼応した人格の義務意識や欲望が自我にとって代わって、自らの認知の主体になる状態をいう」とされる⁶。

本研究では、個人の認知レベルの疎外感ではなく、個の行為性のレベルでとらえられる種々の事象の中に、結果としてどのような疎外された事象が位置づけられてくるのかを問題とする。そこで、自己疎外を行為性のレベルでとらえた「自己を疎外する行為」を、「自らが行為するにあたって主体的に判断し行動した行為でありながら、その行為の本質を考えると、本来個人が主体的・創造的に行動しようとしていた意図とは対立してしまい、結果としては自己の主体的な存在を自らが否定してしまっている行為」と定義する。そして、その中でも、現代社会の状況を最も敏感にとらえ、自己の生き方とかかわらせていると考えられる青年期を対象に、現代青年の日常意識における「自己を疎外する行為」の構造を明らかにしようとする。また、それらの諸構造がどういった社会的要因と関連性を持つものかも問題としたい。

2 調査項目の作成

2-1 調査視点の構造化

本調査の質問項目を作成するにあたり、現代青年の生活領域を全般的にとらえるためにtable 1に示すような調査視点の構造化を行った。

table 1 質問紙の調査視点とその構造化

個体への影響源 個体の生きる世界		家庭・家族	学校・仲間	マス・メディア	
自然との かかわり	生命	生命・財産の保守	難民の生活の話題	経済的豊かさへの反省	生命科学の知識
	生活空間	将来の住居の決定	旅行先の選定	部屋の個性化	海外旅行の計画
	超自然	災厄・死者への祈り	相性・血液型の調査	占い・運勢への関心	運命の受け入れ
人間社会 での かかわり	仕事・技術	将来の職業の選択	技術・資格の取得	科学技術の知識	語学の学習
	物質・商品	購入商品の選択	スポーツ用品・衣服の購入	ブランド品の購入	新製品への関心
	人間関係	対立意見の表明	対立意見の表明	男女交際の方法	性格・相性への関心
	社会規範	礼儀作法への配慮	年長者への配慮	服装・テーブルマナーへの配慮	結婚相手の選択
自分自身 との かかわり	身体・容姿	容姿・服装への配慮	容姿・服装への配慮	髪型・服装への配慮	身体・栄養への関心
	思想・芸術	趣味・特技の習得	政治的意見の表明	映画などの話題性	政治的意見の表明
	生き方・ 生きがい	安定した人生の選択	個人的意見の表明	成功のための方法	結婚の計画

まず、table 1の縦軸として、「個体の生きる世界」という視点で考えた。

この視点は、人間の存在をその生きる世界の本源性から考えてとらえる視点である。すなわち、「人」は、まずその誕生とともにいわゆる自然との関係を開始する。それがAの「自然とのかかわり」である。そして、重層的に連なる時間経過において、人とのかかわりを生み、人間相互の社会の中に存在することになる。これがBの「人間社会でのかかわり」である。さらに、そうした人間社会での存在を通して自己を見つめ、自己の生き方を模索していくことになる。これがCの「自分自身とのかかわり」という視点である。

次にこの3つの視点のそれぞれをさらに3つの分節化した世界としてとらえた。まずAの「自然とのかかわり」は、人間存在の基底としての世界であるが、その根本にある「生命」と存在世界を越える「超自然」を考える。そして、日々の生活における環境をどう受けとめて生活しているかという視点から、「生活空間」が設定された。

Bの「人間社会でのかかわり」では、現代社会において生活の中に成立している諸制度ともいうべき世界を設定した。現代社会で生きるというとき、人は職業を持ち、社会の中に一定の地位を置くことになる。このような現代社会にあって、人が何かを持ち、持つことによって人間として何者かになり、何も持っていないければその存在すらあやぶまれるといった状況をE.Frommは“持つ様式”と呼んでいる⁷。そこで、この“持つ様式”として、社会において我を位置づけることになる「仕事・技術」を設定し、その言葉どおりにものを所有するという視点から「物質・商品」を設定した。そして、自己と他人とのかかわりを規定するものとして「人間関係」を、人と人との関係の営みの中で形成されてきた「社会規範」を、自己の存在に影響をおよぼす世界として考えた。

Cの「自分自身とのかかわり」では、自己との対峙関係を、身体・思想・生活という側面から考え、まず自己の“身”をどうとらえ、“生”に関してどう対しているかという視点から「身体・生命」という視点を考えた。そして、自分自身の内面とのかかわりとして、個の持つ考えである思想と、心の内奥に結びつく芸術とのかかわりを問題とした「思想・芸術」を、最後に、個の人生、現在の生に対するかかわりとして「生き方・生きがい」という分節世界を設定した。

一方、table 1の横軸として、「個体への影響源」という視点を設定した。

この視点は、まず、「人」が、誕生の時点において呼び名を付けられることに始まり、行儀・言葉使いといった行動面、さらには攻撃性や依存性などのような人格・情緒的な側面にいたるまで、いわゆる個人の持つ基本的な生活様式といったものや、「男らしさ」、「女らしさ」のような「らしさ」や「しつけ」が営まれるところとして、個体にとって最も基盤になっていると考えられる「家庭・家族」を設定した。そして、青年期に一度は通過しなくてはならない社会制度としての学校と、そうした制度の中での人間どうしの結びつきの中から生まれ、直接に自己の生き方に大きな影響を与えることになると考えられる仲間という視点から「学校・仲間」を設定した。学生という青年期に特有の一般社会から隔離された独特の環境は、個の生き方に大いに影響を与えていると考えられるし、そうした同じ場所で共に学ぶ仲間との関係は、ある意味では青年期に特徴的な学生生活の大部分の領域を占めていると考える。さらには、個体に多種多様な情報として、数多くの生き方のモデルを提供し、性の役割といったものや、社会事象への様々な意見や態度などを個体に内面化させているであろうものとして「マス・メディア」の影響という視点を設定した。

以上の縦軸と横軸を交絡させて、日常生活において生起する多様な諸行為を範疇化し、table 1の各セルの中に入る一つ一つの具体的な調査項目視点を考え、それに基づいて、実際の項目の原案を考えた。

項目視点の作成は、千葉大学大学院教育学研究科の青年心理学・人格心理学を専攻する大学院生・研究生・教官の6名で検討し、その結果、現代青年の日常生活の中で「自己を疎外する行為」としてふさわしい内容とされたものが残された。設定された項目視点は、table 1の各セルの中に示されている40項目である。

2-2 質問項目の作成

構造化された調査の項目視点に基づいて、具体的な日常生活をとらえた諸行為の質問項目を作成した。質問項目の作成の基準は、次のとおりである。

①行為性のレベルで作成する。すなわち、回答を本人のタテマエでするということを防ぐため、その行為を自分がするのかしないのかという次元で、自分自身と照らし合せて回答できるよう考慮した。②「個体への影響源」と「個体の生きる世界」の縦横を交絡させた内容の項目を作る。このことにより、各項目には一見2つの内容が含まれている項目となる。そこで、その2つのどちらの行為においても「自己を疎外する行為」の項目となるように内容を考えて作成する。この結果、回答者が、2つの意味を含んだ項目のどちらの行為性に重点を置いて回答したのかが、後の解析によって分析可能となる。③現代の青年の日常生活をとらえるのにふさわしく、かつ、具体的内容を持った項目になるよう作成する。これは、調査協力者が回答を考える際に、自己の体験と照らし合わせて各項目への回答ができるよう、現代社会に対応した内容で、しかも現代青年の生活の中に頻繁に生起する内容とするための配慮である。

このようにして作成された項目について、項目視点を作成したメンバーと同じ6名により、最終的な「自己を疎外する行為」に関する40項目が作成された。

2-3 Face Sheet項目

この調査では、「自己を疎外する行為」を規定する社会的要因を分析することも1つの目的としているので、Face Sheet項目として、「性別」・「年齢」・「両親と同居か別居か」・「祖父母との同居経験の有無」・「住いにテレビが有るか無いか」・「自分が主に使用する車の有無」・「両親の学歴」を設定した。

各項目の設定理由は、次のとおりである。

①性別：本研究では、日常生活場面で自己を疎外する行為がどのような規定因から行為されているのかを探ろうとする。同じ日常行為であっても、男性と女性とではその行為に対する社会的な圧力が違い、その受けとめ方にも違いが生じてくるのが考えられる。特に「男らしさ」・「女らしさ」というような「らしさ」といったものは、現代社会の中でそれぞれに、画一化された価値づけを持つようになってきており、本来の「おとこ」性・「おんな」性と遊離した、自己に対する疎外要因となっていると考えられる。そこで、どのような行為性において男性と女性とにかけられている社会的圧力が相違するのを見るために、男女両性を調査の対象とする。

②年齢：年齢によりその時代の受けとめ方が異なることは、十分に考えられる。特に青年期までは、一年一年の成長が著しく、同じ出来事を同時に経験していたとしても、その受けとめ方には、差異があると考えられる。また、高等学校までと大学とでは、学校制度の上からも、管理が厳しく行動上の規制も厳しい高等学校の生活に近い者と、ほとんど生活上の制約を受けることのない大学の生活を何年か過ごしてきた者とは、その生活意識に違いがあると思われる。したがって年齢を取り上げた。

③両親と同居か別居か：両親と同居して生活を送っている者と、両親から離れて生活を送っている者とは、家族との直接の接触を持っている同居者の方が、いろいろな面で家族からの規制を受けることになると考えられる。一方、両親と別居の者は、自宅ではしないで済ませた

ものをしてしなければならなかったり、家族の制約を気にせずに行動し経験したりすることができるため、同じ年齢にあってもその生活意識には違いがあるものと考えられる。

④祖父母との同居経験の有無：祖父母との同居経験の有無は、同居経験のある者の方が、親からよりもまして、伝統的な「家」や「家族」に特有な価値・思考体系にふれる機会を増すことになる。また、人生における「古い」のイメージも具体的な人物を通して得られることになる。このことは、青年期において時間的展望を形成していくにあたって、大いに影響を与えるものと考えられる。

⑤テレビの有無：現在では、ほとんどの家庭においてテレビを設置しており、そこからもたらされる情報の量は、多大なものがある。ところが、意識的にテレビを設置していなかったり、一人住まいでテレビを置いていない者もある。このような場合、日常的にテレビのもたらす情報に接し受け入れている者との間には、その情報接触量において差異があり、そのことは生活意識の形成における差異も生み出すことになるだろうと考えられる。

⑥自分が主として使用する車が有るか無いか：現代社会は別名“車社会”と呼ばれている。青年期においても、この車に関する関心は非常に高いものがある。中には自分自身で車を所有している者もあり、この点において、持つ者と持たない者という、仲間間での特有の関係を生じさせる結果となる。こうした仲間との関係における立場の違いは、青年の生活意識においても少なからず影響を与えていると考えられる。

⑦両親の学歴：現代社会は、明治以来の学歴社会を継承してきており、両親の学歴の違いは、一見自由で平等に見える教育の機会や職業に様々な差異を与えている。それだけではなく、彼らの家庭の経済的な収入や社会的な地位、職業といったことまでも規定していることが少なくないと思われる。そのため家庭環境や本人への学力期待といった点で、青年の生活意識にも影響を与えているものと思われる。

3 調査方法及び調査協力者

3-1 調査協力者

調査はtable 2に示すように、千葉、茨城、東京の国・私立3大学10学部の2年生以上の者793名の協力を得た。

table 2. 調査協者数

調査校	男性	女性	計
千葉大学	194	241	435
茨城大学	72	148	220
東洋大学	66	72	138
計	332	461	793

調査協力者の選定にあたっては、大学を複数にし、一つの大学の特徴となることを避けた。また結果に、地域的な特色が入ることを避けるため、出身地方が全国に広がる東京の大学を含んでいる。さらに、学部の選択において、そのこと自体が個人の行動様式の一部を反映してしまうことを避けるために、文科

系と理科系の両方から所属学部がなるべく多くにわたるよう考慮した。

この調査では、自己の内面と照らし合わせて各項目に回答していくことになるので、自己の意識を確立できている年齢と考えられる大学2年生以上を調査の対象にしている。

3 2 調査票

調査票は、[I]として、本報告では触れていないField Dependence次元を測定するEFT 検査用紙の『図形認知の方略に関する調査票』があり、次に[II]として、『大学生の日常意識に関する調査票』と題して、「自己を疎外する行為」の質問紙と、「自我同一性地位」を判定

する尺度の質問紙を組み合わせたものを用意した。そして、調査用紙全体として、『大学生の図形認知と日常意識に関する調査票』と題して、調査協力への依頼文を付けて、調査協力者に配布した。

3-3 調査の実施

調査の実施は、すべてこの調査のために用意した「調査実施の手引き」に従って実施した。調査内容の性質から、数学・青年心理学・臨床心理学の授業において行った。手順は、まず、[I]の検査に引き続いて、約12～15分間行った。[I]・[II]の両調査全体の所要時間は、約30分である。回答に先立って、回答方法を統一するために、Instruction-tapeによって説明を行い、合図とともに、マイペースで回答を行わせた。本報告の対象となっている「自己を疎外する行為」の質問紙の回答に際しては、①私たちが日常「している」ことや「考えていること」について、「あなた自身に照らし合わせてどうであるか」を思いかえして回答すること、②最も良くあてはまると思う目盛の所を○で囲むことを指示した。そして、「よくあてはまる(6)」から、「だいたいあてはまる(5)」「どちらかといえばあてはまる(4)」「あまりあてはまらない(3)」「かなりあてはまらない(2)」「ほとんどあてはまらない(1)」の6段階のいずれかを自己評定させた。調査の実施は1984年10月～11月である。

4. 現代青年の日常生活諸行為及び興味・関心における 「自己を疎外する行為」に関する因子分析的検討

「自己を疎外する行為」として作成した質問項目の構造化が、理論的に妥当であるかどうかを検討することを目的として、因子分析的検討をおこなった。まず、各質問項目の妥当性を各項目の分散及び平均値により検討した後、全質問項目が回答の散らばりの上からも有効であることを確認し、さらに、因子分析の結果抽出した回転後の因子においても有効な項目になっていることを確認してから、因子分析の結果を解釈した。

因子分析にあたっては、千葉大学情報処理センター「HITAC M-180 /VOS 3」で、主にSPSS[®]によって因子分析を行った。分析に際し、相関係数はピアソンの相関係数、因子抽出法は主因子法、因子軸の回転法はVarimax法、回転後の因子抽出のための基準としては固有値1.0000以上として行った。また、各因子の解釈に際しては、各因子に帰属させる項目の選定基準として、.30000以上を便宜的な選定基準として解釈を進めた。

この結果抽出した因子は9つであり、各因子ごとに、帰属する項目の検討を行い、因子の命名を行った。この際、複数の因子に含まれる項目に関しては、それぞれの因子において、他の項目との関連をはかりながら解釈を行い、各々の因子において、項目の取る負荷量の絶対値がその因子に対して最大でないのに項目として選定された因子に帰属している場合、因子分析の結果を示すtable 3～11において、項目番号に()を付けて示してある。

第1因子は、全分散の23.3%を説明し、14項目が含まれる(table 3)。この項目を構造化の視点から考えると、カテゴリーの欄を見ても明らかなように、「マス・メディア」に関する項目が中心である。さらに、項目を順に追っていくと、「自分の印象を悪くしたくない」「個人的にしたい」「新製品やブランド品を選ぶ」「顔やスタイルの印象を良くしたい」「人前では恥をかきたくない」「仲間のもっとあまり見劣りのしないものを買う」「話題性が重要」と続いている。その内容としては、髪型・服装・部屋のデザイン・インテリア・顔・スタイル・テーブルマナー・スポーツ用品・映画・イベント・海外旅行・新製品と続いており、ここに挙げられているもののほとんどが、いわゆるカタカナ文化と呼ばれる外来の、比較的新しい文化

table 3. 第1因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項 目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (1) 『「マス情報 の話題・流行 への敏感な対 応」と「自分 らしさの模索に よる行為性」 の因子	1 5	人と会うときは、自分の印象を悪くしたくないので、髪型や服装について書いてある本や雑誌を読む。	0.75145	マス・メディア 自分自身 身体・容姿
	3	自分の部屋は、個性的にしたいので、部屋のデザインやインテリアについて書いてある本や雑誌を読む。	0.59729	マス・メディア 自然 生活空間
	2 7	衣服や持ち物などを買うときには、よい品物を買いたいので、テレビや雑誌で紹介された新製品やブランド品を選ぶようにしている。	0.58458	マス・メディア 人間社会 物質・商品
	4	異性の友だちには、顔やスタイルの印象を良くしたいので、容姿や服装に気を配る。	0.55561	学校・仲間 自分自身 身体・容姿
	2 8	人前では恥をかきたくないで、服装やテーブルマナーについて書いてある雑誌や本を読む。	0.55411	マス・メディア 人間社会 社会規範
	1 3	スポーツ用品や衣服などを買うときは、仲間のものであまり見劣りのしないものを買う。	0.53036	学校・仲間 人間社会 物質・商品
	1 4	映画やイベントは、話題性が重要なので、早いうちに見に行く。	0.51205	マス・メディア 自分自身 思想芸術
	5	テレビや雑誌などで、海外旅行が話題になっているので、人気のある場所を選んで計画を立ててみる。	0.49928	マス・メディア 自然 生活空間
	3 2	テレビや雑誌などで、シャンプーなど日常よく使うものの新製品が宣伝されると、自分に合うものかどうか一度買ってためしてみる。	0.44728	マス・メディア 人間社会 物質・商品
	1 8	自分のスタイルや体重は、自分自身でコントロールしなければならないので、雑誌やテレビで紹介される栄養のとり方や美容体操などを行ってみる。	0.43679	マス・メディア 自分自身 身体・容姿
	1 2	結婚は人並みにしたいので、式場や新婚旅行について書いてある雑誌の記事などには目を通す。	0.40154	マス・メディア 自分自身 生き方・生きがい
	2 0	異性との交際では、相手の気持ちをより大切にしたいので、男女のつき合い方について書いてある本や雑誌を読む。	0.37055	マス・メディア 人間社会 人間関係
	2 1	旅行の計画を立てるときは、友だちにすすめられたり、行ったことが話題になりそうな場所を選んで計画する。	0.36012	学校・仲間 自然 生活空間
	(34)	最近、離婚の原因として性格の不一致が話題となるので、雑誌や本の性格テストをやってみる。	0.31075	マス・メディア 人間社会 人間関係

を構成しているものである。こうした文化を自己の内面に取り込み、「自分らしさ」を演出しようと、マス・メディアから送り込まれてくる大量の情報の中で模索している現代青年の姿が浮き彫りにされた因子といえよう。そして、こうした他者との比較の中で「(自分)らしさ」を“持つ”かどうかの追求に奔走しているうちに、「らしさ」に対する価値づけが自己の存在の価値づけと混然としてくる。そうして、自己本来の「らしさ」との同一性⁹を見失い、混乱した状態に陥ってしまうのである。このような観点から、第1因子は、『「マス情報の話題・流行への敏感な対応」と「自分らしさの模索による行為性」の因子と命名した。

第2因子は (table 4) , 全分散の6.4 %を説明し、7項目が含まれている。この因子項目は、「家庭・家族」に関する項目と、教師や仲間といったものからの影響を受けている項目である。そして、項目内容を見てみると、「人前での振舞い方や礼儀作法」「年長者への接し方」「人に見られても恥ずかしくない身なり」「自分の家の体面」といったぐあいが続いている。ここでは、個の置かれた自己にとって関係性の濃い人たちとの人間関係において、自己の内面にある活動的な動機が強く抑制されている様子が見えがえる因子である。そこで、この因子を『「人間関係的行為性への親・家族の圧力の受容」による行為性』の因子と命名した。

table 4. 第2因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項 目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (2) 『「人間関係 的行為性への 親・家族の圧 力の受容」に よる行為性』 の因子	2 4	親から、人前での振舞い方は非常に大事だと言われているので、礼儀作法には気を配る。	0.74616	家庭・家族 人間社会 人間関係
	1 7	教師やサークルの仲間との関係をうまくやっていくには、年長者への接し方が重要なので、あいさつや礼儀には気を配る。	0.61646	学校・仲間 人間社会 社会規範
	3 9	親に、人から見られても恥ずかしくない身なりをするように言われているので、みっともない服装はしないようにしている。	0.47071	家庭・家族 自分自身 身体・容姿
	2 5	自分の家に悪いことがあるといけないので、お墓参りや葬式では丁重に祈る。	0.46500	家庭・家族 自然 超自然
	2 3	生命や財産は、自分自身で守っていかなければならないので、家族については特に自分たちで気を配る。	0.45114	家庭・家族 自然 生命
	(29)	将来どこに住むかは、親の住まいと全く関係なしには考えられないので、なるべく近くなるように決める。	0.32022	家庭・家族 自然 生活空間
	(31)	親から、みっともないものは買わないようにと言われているので、世間体の悪い商品は買わない。	0.30708	家庭・家族 人間社会 物質・商品

table 5. 第3因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項 目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (3) 『「生き方規定 情報への関心」 による行為性』 の因子	3 0	友だちの間では、血液型や星座などの相性が話題になるので、自分に関係のあるところは調べてみる。	0.75046	学校・仲間 自然 超自然
	1 6	自分の運命や将来が気になるので、雑誌や本に載っている占いや運勢欄は関心を持ってみる。	0.71454	マス・メディア 自然 超自然
	3 4	最近、離婚の原因として性格の不一致が話題となるので、雑誌や本の性格テストをやってみる。	0.60077	マス・メディア 人間社会 人間関係
	3 6	自分のすることはなるべくうまくやりたいので生き方や成功するための方法について書いてある本や雑誌を読む。	0.34885	マス・メディア 自分自身 生き方・生きがい
	(20)	異性との交際では、相手の気持ちをより大切にしたいので、男女のつき合い方について書いてある本や雑誌を読む。	0.34251	マス・メディア 人間社会 人間関係

第3因子は、全分散の5.6%を説明し、5項目が含まれる(table 5)。この因子では、「血液型・星座・運命・性格テスト・HOW TOものの本」というようなものが並ぶ。ここで見出されるのは、本当の自分というものを求めていながら、実際にはその答えになるようなものが、はっきりとつかめないでいることに不安な感情を持ち、この課題に対して回答を与えてく

れそうなものに頼りたい気持ちでいる様子が描き出されている因子である。そこで、『生き方規定情報への関心』による行為性』の因子と命名した。

第4因子は、全分散の4.4%を説明し、8項目を含む（table 6）。この項目の内容を見る

table 6. 第4因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (4) 『社会・政治的事象への自己抑制による行為性』の因子	1 1	政治的な意見や考えを言うことは、友だちとの関係を気まずくするので、話題にしないようにしている。	0.58489	学校・仲間 自分自身 思想・芸術
	2	仲間とのつき合いでは、難民の暮らしなどは共通の話題になりにくいので、話題にしないようにしている。	0.52742	学校・仲間 自然 生命
	3 7	国の政治や国際関係についての報道に接しても日常生活にかかわり薄いので、自分の意見を人に言うことはない。	0.49222	マス・メディア 自分自身 思想・芸術
	9	ニュースなどで、かなりの地域に飢えている人がいることを知っているが、どうすることもできないので、自分自身を振り返ってみることはない。	0.49313	マス・メディア 自然 生命
	4 0	サークルや仲間との話し合いでは、まとまりを大切にしたいので、自分だけ違った意見を言うことはつつしむ。	0.39735	学校・仲間 人間社会 人間関係
	1	親から、人前では角の立つような意見は言わないようにと言われていたので、他人と対立するような意見はひかえる。	0.38501	家庭・家族 人間社会 人間関係
	(10)	親から、安定した道をすすむように期待されているので、成功するかどうかかわからないようなことは選択しないようにしている。	0.35923	家庭・家族 自分自身 生き方・生きがい
	1 9	仲間と将来の人生設計について話すときは、個人の考え方を大切にしたいので、お互いに相手の考え方には干渉し合わないことにしている。	0.33018	学校・仲間 自分自身 生き方・生きがい

と、政治的な意見や社会問題・自分の意見をはっきり述べることにに関して、そうした他者を含んだ関係の中で、自分をはっきりさせる行為において、それを抑制してしまっている様子が描かれている因子である。したがって『社会・政治的事象への「自己抑制」による行為性』の因子と命名した。

第5因子は、全分散の4.0%を説明し、7項目を含んでいる（table7）。項目の内容は、自分の人生の中で自分自身の決断によって行っていくことが、他の事柄よりも比較的多いと思われる節目となるような出来事において、親や、社会一般に言われているようなやり方であることを、自分としてもそのようなやり方でやろうと受け入れて行動しているような様子の方がえる因子である。そこで『自己決定を必要とする問題に対する期待の感受』による行為性』の因子と命名した。

第6因子は、全分散の3.2%を説明し、3項目を含んでいる（table 8）。項目の内容は、科学技術や生命科学といった、これからの社会を担っていくことになると思われる最新知識に関するものである。これらは、生活を豊かにしてくれるものとして個の中に受け入れられているが、その受け入れ方は、全面的な信奉といっても良いほどのもので、人間にとって害があるかもしれないと疑うような様子などどこにもうかがえないと

table 7. 第5因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (5) 『「自己決定を必要とする問題に対する期待の感受」による行為性』の因子	26	将来の職業は、親の職業と全く関係なしに決めると不利なので、ある程度関連のあるものにする。	0.46192	家庭・家族 人間社会 仕事・技術
	29	将来どこに住むかは、親の住まいと全く関係なしには考えられないので、なるべく近くなるように決める。	0.45645	家庭・家族 自然 生活空間
	10	親から、安定した道をすすむように期待されているので、成功するかどうかわからないようなことは選択しないようにしている。	0.43269	家庭・家族 自分自身 生き方・生きがい
	7	テレビや雑誌などで、結婚は社会的にもつり合いのとれた相手とすると良いといわれているので、レベルの同じ相手とつき合うようにしている。	0.39970	マス・メディア 人間社会 社会規範
	31	親から、みっともないものは買わないようにと言われているので、世間体の悪い商品は買わない。	0.37533	家庭・家族 人間社会 物質・商品
	(21)	旅行の計画を立てるときは、友だちにすすめられたり、行ったことが話題になりそうな場所を選んで計画する。	0.33951	学校・仲間 自然 生活空間
	(12)	結婚式は人並みにしたいので、式場や新婚旅行について書いてある雑誌の記事などには目を通す。	0.33864	マス・メディア 自分自身 生き方・生きがい

table 8. 第6因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (6) 『「先見・先端的知識に対する積極的指向」による行為性』の因子	35	これからの生活を豊かにしていくためには、機械や科学技術についての理解が必要なので、テレビや雑誌などで最新の知識を身につける。	0.83980	マス・メディア 人間社会 仕事・技術
	38	これからの科学には、バイオテクノロジーなどの生命科学の最新知識が必要なので、テレビの科学番組を見たり雑誌を読んだりする。	0.71769	マス・メディア 自然 生命
	22	これからの国際社会で活躍していくためには、語学力が必要なので、テレビ・雑誌・テープなどで語学を学ぶ。	0.30029	マス・メディア 人間社会 仕事・技術

このような因子である。そこで、『「先見・先端的知識に対する積極的指向」による行為性』の因子と命名した。

第7因子は、全分散の3.1%を説明し、2項目を含む(table 9)。因子の内容を見ると

table 9. 第7因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (7) 『「将来期待からの資格・技術指向」による行為性』の因子	6	親から、趣味や特技はあった方が良いと言われているので、将来役に立ちそうなことをなるべくやっておくことにしている。	0.65070	家庭・家族 自分自身 思想・芸術
	8	教師や仲間から、将来役に立つ技術や資格はあった方が良いと言われているので、免許や資格はなるべく多くとっておくようにしている。	0.51323	学校・仲間 人間社会 仕事・技術

“持つ様式”として、将来の有用性を評価した資格や技術を取得することである。ここにおいてもその事柄に対して疑問を差しはさんでみるということがないということになるだろう。そこで、因子名は、『「将来期待からの資格・技術指向」による行為性』の因子と命名した。

第8因子は、全分散の2.8%を説明し、2項目を含んでいる (table 10)。因子の内容から、

因子名	番号	項 目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (8) 『「生命・身体に関するマス情報の受容」による行為性』の因子	(9)	ニュースなどで、かなりの地域に飢えている人がいることを知っているが、どうすることもできないので、自分自身を振り返ってみることはない。	-0.32616	マス・メディア 自然 生命
	(18)	体のスタイルや体重は、自分自身でコントロールしなければならないので、雑誌やテレビで紹介される栄養のとり方や美容体操などをやってみる。	0.36581	マス・メディア 自分自身 身体・容姿

危険性を含みながらも解釈を試みると、因子の内容としては、マス情報に関連し、しかも生命・身体に関する情報であると解釈できる。そこで『「生命・身体に関するマス情報の受容」による行為性』の因子と命名した。

第9因子は、全分散の2.7%を説明するにすぎないが、2項目を含んでいる (table 11)。

table 11. 第9因子に含まれる項目と因子負荷量

因子名	番号	項 目	因子負荷量	カテゴリー
Factor (9) 『「親の社会一般的価値づけへの同一化」による行為性』の因子	(31)	親から、みっともないものは買わないようにと言われているので、世間体の悪い商品は買わない。	0.34118	家庭・家族 人間社会 物質・商品
	(39)	親に、人から見られても恥ずかしくないみなりをするように言われているので、みっともない服装はしないようにしている。	0.30158	家庭・家族 自分自身 身体・容姿

そこで、この因子も控えめに解釈すると、その内容は、親の社会一般の価値や通念に対する受容的な態度を、子供である自分の中で、自分の態度として受け入れて行動している様子であるように解釈できる。そこで、『「親の社会一般的価値づけへの同一化」による行為性』の因子と命名した。

以上のように、解釈可能な9つの因子について見出された40項目に基づいて、「自己を疎外する行為」の構造について、因子分析的に検討を行った。

5 Face Sheet 項目による判別分析の結果と今後の問題

因子分析の結果抽出した各因子に含まれた40項目について、全項目に対する反応傾向を各々のFace Sheet項目によって判別分析を行った。判別分析は、それぞれのFace Sheet項目について、各々一回、ただし両親の学歴については、父母の両方とも1回ずつ行い、合計で8回行った。各々の判別グループに関して算出した判別成功率を整理したものがtable 12である (判別

table 12. 回答傾向の各集計項目による判別成功率

判別群	性 ②	年 齢 ⑥	親との同居 ②	祖父母の同居 ②	テレビの専有 ②	車の専有 ②	両親の学歴	
							父 ⑦	母 ⑦
%	83.35	33.67	60.15	58.71	64.52	64.56	32.17	33.98

群の欄の中の○の中の数字は、各群のカテゴリ数を表している)。

この結果、性別については、反応傾向において、判別基準となった「性別」による違いが見出されたが、年齢その他の判別グループについては、判別成功率が低いことが示された。本研究の目的は、現代青年が日常生活世界において、「自分らしく」ありたいと行為していながら、自らの諸行為のうちに「個の生きる生活世界」や種々の「個体への影響源」から規制されてくる内容を押さえ、そのうち、どういった要因において、過度の規制が働いているかを探ることも目的としている。その観点から判別成功率の値を見てみると、この調査で用いた項目が、性別を弁別する項目で構成されていることが示された。

この結果から、個の受ける様々な規制要因は、個の行為性に加わる社会的圧力として、「性別」によって違いがあることがわかる。そしてこのことから、次のような予想を立てることもできよう。すなわち、現代青年は、「自分らしさの模索」のうちに、本来の自己の姿を見失ってしまっている。そしてさらに、その状況に対する社会的圧力は、「性」の違いによって、異なる角度から圧力をかけており、「自分らしさ」の追求の中に、「男らしさ」「女らしさ」という「性」にかかわる「らしさ」を求めることが、多分に含まれてきている。現代青年が自己を確立しようとするとき、この「性の同一性」という課題が一つの大きな課題として存在し、そのことは、「性」に対する社会の価値観が、「自分らしく」生きれば良いとするタテマエ的な部分と、「らしさ」としてこうあるべきだという画一化の方向にある部分とが、はっきりとした形では示されていないで、様々な出来事の中で混然として存在し、ぶつかり合ったところにあるといえるのではなからうか。

判別分析の結果から、性別によって各項目への反応傾向が違うことが見出されたので、調査に用いた40項目について、性差によるF検定を行った。このF値によって5%以下の危険率で有意な差の認められた項目が31項目であった。そこでさらに各項目の平均値を調べたところ、28項目で女性の得点が高く、3項目で男性の得点の方が高かった。この結果は、質問への回答傾向が、女性においてよりあてはまる内容ものが多かったか、あるいは、女性において項目に肯定的な回答をする傾向があることを示している。いずれにせよ、それぞれの項目を単独で女性項目、男性項目として、各々の性に特徴のある「自己を疎外する行為」の側面を描き出す結果とはなっていない。そこで、各々の性に特有の疎外要因となっているものを検討するためには、各性別ごとに、さらに因子分析を行うことによって、その結果描き出されてくる疎外要因の構造に、性別による差異がないかどうか、また、あるとすればどういった点においてなのかを検討していく必要がある。なお、この点に関しては、現在検討を進めているところである。

さらに、今回の結果から、青年期における自己の確立という課題において、「自分らしさ」の同一化における模索の状態が浮き彫りにされた。青年が、そうした自我同一化をはかる時期にあって、しかもその場合に同一視すべき何ものかを求めるとき、現代社会の様々な要因からの圧力と、自己との間の矛盾を経験しなければならなくなっている。このような観点から、今後「自我同一性」としてとらえられている青年期の特徴と、「自己を疎外する行為」としてとらえてきた諸構造との関連についても検討を進めていく必要があるだろう。

要 約

本研究では、現代青年の日常生活世界における認識の特徴を「自己を疎外する行為」という視点から明らかにしようとした。「自己を疎外する行為」とは、自らが主体的に行動した行為でありながら、その本質を考えると、本来個人が主体的・創造的に行為するものとは異なってしまう、結果として自己の主体性の存在を否定してしまっているような行為のことである。

本研究では、この「自己を疎外する行為」が、現代青年の日常生活の中においてどのような要因と関連し、どのような構造を示しているのかを検討した。検討にあたっては、まず「自己を疎外する行為」と考えられる40の項目によるオリジナルな質問票を用意し、大学生2年生以上793名に回答してもらった。それを因子分析を用いて検討を進めた。結果は、「自己を疎外する行為」の構造として9つの因子を抽出した。これらの因子の検討から、「自分らしさ」を模索しようと取り組みながら、自ら思考し創造しようとするのではなく、「マス情報の話題・流行への敏感な対応」を主とし、「占いの生き方規定情報」などを受け入れて行為している現代青年の姿が描き出された。また、それぞれの行為性に及ぼす社会的な圧力には、性別によって違いがあるであろうことが予想され、各々の性によって、どのような要因が自己にかかわっているのかについて、今後検討を進めていく上での方向性が示唆された。

注

- 0) 本稿は、神永が昭和59年度千葉大学に提出した修士論文『社会的圧力への“気づき”と認知機能との関連 —— 知覚的場依存-場独立次元からの検討 —— 』（1984）のうち、「大学生の日常意識と認知機能 —— 現代青年の自己を疎外する行為とField Dependenceとの関連 —— 」として報告したものの一部を再整理し、検討を加えたものである。
- 1) 神永は、上記論文において、社会的圧力の生じる実験場面と、個人の内に取り込まれているPersonality との関連を検討している。
神永典郎・吉田昭久 1983 知覚判断における集団圧力とPersonality (その1); 日本社会心理学会第24回大会研究発表論文集p.60-61. を参照のこと。
- 2) Fromm, E. (懸田克躬訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店 1959) P.4 で「性」の商品化について述べられている。
- 3) Marxの疎外概念については、Schaff, A. (花崎臯平訳)『社会現象としての疎外』(岩波書店 1984) の中で、P.99~131 によくまとめられている。
- 4) 田崎醇之助・吉川栄一『疎外感』(大日本図書 1972) P.21において、「(心理学では) 行動的環境のあり方を問題にするのであって、疎外を扱うときも、この立場に立って考察していく」「心理学では疎外の認知、いいかえると疎外されているとって悩むということの問題にしようというのである」と述べている。
- 5) Riesman, D. (加藤秀俊訳)『孤独な群衆』(みすず書房 1964) では、現代のいわゆる大衆社会において、現代人の社会的性格として「他人指向型」性格が支配的であることを述べている。
- 6) 上田吉一『精神的に健康な人間』(川島書店 1969) P.242 ~255 でP.242 に自己疎外の心理学的構造とその定義を述べている。
- 7) Fromm, E. (佐野哲朗訳)『生きるということ』(紀伊國屋書店 1977) P.33 この本では、“持つ”様式と“ある”様式について論じており、「現代社会では、あることの[・]本質そのものは持つことなのであって、もし人間が何も[・]持たなければ何ものでも[・]ありはしないと思われ
- 8) SPSS (Statistical Package for the Social Scienceの略)
三宅一郎・山本喜一郎『SPSS統計パッケージ I 基礎編』(東洋経済新報社, 1976) 三宅一郎・中野嘉弘・水野欽司・山本喜一郎『SPSS統計パッケージ II 解析編』(東洋経済新報社 1977) P.84~116 を参照のこと。

- 9) Erikson, E. H. (岩瀬庸理訳)『アイデンティティ —— 青年と危機 —— 』(金沢文庫1973),
Erikson, E. H. (仁科弥生訳)『幼児期と社会 I・II』(みすず書房 1977),
Erikson, E. H. 『自我同一性』(誠信書房 1973) 等を参照のこと。

Appendix I

〔Ⅱ〕大学生の日常意識に関する調査票

① 次の各項目は、私たちが日常「している」ことや「考えている」ことについてあげたものです。それぞれの項目について、「あなた自身に照らしてどうであるか」を思いかえし、あなたに最も良くあてはまると思う目盛の所を、下の例のように○印で囲んで下さい。

この調査は、あなたが正しいとか間違っているとかを調べるものではありませんので、自分の思った通りにお答え下さい。また、質問とはばさず順に回答して下さい。

あよ あだい あどち あてあ あか あほ
てく てたい てちら てはあ てはは てはは
は は はは はまら はまら はまら
ま ま まま まら まら まら
る る るる るる るる るる

- | | | | | | | | |
|---|----------|---|---|---|---|---|---|
| (例) 人に好感を持たれるような話し方やしぐさがしたいので、映画やドラマでやる俳優のしぐさをまねる。 |(例) | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1 親から、人前では角の立つような意見は言わないようにとされているので、他人と対立するような意見はひかえる。 |① | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 仲間とのつき合いでは、難民の暮らしなどは共通の話題になりにくいので、話題にしないようにしている。 |② | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 自分の部屋は、個性的にしたいので、部屋のデザインやインテリアについて書いてある本や雑誌を読む。 |③ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 異性の友だちには、顔やスタイルの印象を良くしたいので、容姿や服装には気を配る。 |④ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 テレビや雑誌などで、海外旅行が話題になっているので、人気のある場所を選んで計画を立ててみる。 |⑤ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 親から、趣味や特技はあった方が良くと言われてるので、将来役に立ちそうなことをなるべくやっておくことにしている。 |⑥ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 テレビや雑誌などで、結婚は社会的にもつり合いのとれた相手とすると良いといわれているので、レベルの同じ相手とつき合うようにしている。 |⑦ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 教師や仲間から、将来役に立つ技術や資格はあった方が良くと言われてるので、免許や資格はなるべく多くとっておくようにしている。 |⑧ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 ニュースなどで、かなりの地域に飢えている人がいることを知っているが、どうすることもできないので、自分自身を振り返ってみることはない。 |⑨ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 親から、安定した道をすすむように期待されているので、成功するかどうかかわからないようなことは選択しないようにしている。 |⑩ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 政治的な意見や考えを言うことは、友だちとの関係を気まずくするので、話題にしないようにしている。 |⑪ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 結婚式は人並みにしたいので、式場や新婚旅行について書いてある雑誌の記事などには目を通す。 |⑫ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13 スポーツ用品や衣服などを買うときは、仲間のもっとあまり見劣りのしないものを買う。 |⑬ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14 映画やイベントは、話題性が重要なので、早いうちに見に行く。 |⑭ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15 人と会うときは、自分の印象を悪くしたくないので、髪型や服装について書いてある本や雑誌を読む。 |⑮ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 16 自分の運命や将来が気になるので、雑誌や本に載っている占いや運勢欄は関心を持ってみる。 |⑯ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 17 教師やサークルの仲間との関係をうまくやっていくには、年長者への接し方が重要なので、あいさつや礼儀には気を配る。 |⑰ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 体のスタイルや体重は、自分自身でコントロールしなければならないので、雑誌やテレビで紹介される栄養のとり方や美容体操などをやってみる。 |⑱ | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

		あよ	あ	あ	あ	あ	あ
		て	だ	ど	あ	あ	あ
		は	いた	ち	は	は	は
		ま	たい	ら	ま	ま	ま
		る	は	か	ら	ら	ら
			い	と	い	い	い
			ま	い	え	え	え
			る	ば	ば	ば	ば
		6	5	4	3	2	1
19	仲間と将来の人生設計について話すときは、個人の考え方を大切にしたいので、お互いに相手の考え方には干渉し合わないことにしている。……⑱						
20	異性との交際では、相手の気持ちをより大切にしたいので、男女の付き合い方について書いてある本や雑誌を読む。……㉑						
21	旅行の計画を立てるときは、友だちにすすめられたり、行ったことが話題になりそうな場所を選んで計画する。……㉒						
22	これからの国際社会で活躍していくためには、語学力が必要なので、テレビ・雑誌・テープなどで語学を学ぶ。……㉓						
23	生命や財産は、自分自身で守っていかなければならないので、家族については特に自分たちで気を配る。……㉔						
24	親から、人前での振舞い方は非常に大事だと言われているので、礼儀作法には気を配る。……㉕						
25	自分の家に悪いことがあるといけないので、お墓参りや葬式では丁寧に祈る。……㉖						
26	将来の職業は、親の職業と全く関係なしに決めると不利なので、ある程度関連のあるものにする。……㉗						
27	衣服や持ち物などを買うときには、よい品物を買いたいので、テレビや雑誌で紹介された新製品やブランド品を選ぶようにしている。……㉘						
28	人前では恥をかきたくないで、服装やテーブルマナーについて書いてある雑誌や本を読む。……㉙						
29	将来どこに住むかは、親の住まいと全く関係なしには考えられないので、なるべく近くなるように決める。……㉚						
30	友だちの間では、血液型や星座などの相性が話題になるので、自分に関係のあるところは調べてみる。……㉛						
31	親から、みっともないものは買わないようにと言われているので、世間体の悪い商品は買わない。……㉜						
32	テレビや雑誌などで、シャンプーなど日常よく使うものの新製品が宣伝されると、自分に合うものかどうか一度買ってためしてみる。……㉝						
33	運命には逆らえないという小説やドラマをみると、人生は自分の努力だけではどうすることもできないように思えるので、今を楽しく生きる。……㉞						
34	最近、離婚の原因として性格の不一致が話題となるので、雑誌や本の性格テストをやってみる。……㉟						
35	これからの生活を豊かにしていくためには、機械や科学技術についての理解が必要なので、テレビや雑誌などで最新の知識を身につける。……㊱						
36	自分のすることはなるべくうまくやりたいので、生き方や成功するための方法について書いてある本や雑誌を読む。……㊲						
37	国の政治や国際関係についての報道に接しても、日常生活にかかわりが薄いので、自分の意見を人に言うことはない。……㊳						
38	これからの科学には、バイオテクノロジーなどの生命科学の最新知識が必要なので、テレビの科学番組を見たり雑誌を読んだりする。……㊴						
39	親に、人から見られても恥ずしくない身なりをするように言われているので、みっともない服装はしないようにしている。……㊵						
40	サークルや仲間との話し合いでは、まとまりを大切にしたいので、自分だけ違った意見を言うことはつつしむ。……㊶						

Appendix II 回転後の因子負荷量行列

項目No	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	FACTOR 6	FACTOR 7	FACTOR 8	FACTOR 9
Q 0 1	0.09867	0.21816	0.08884	0.38501	0.21608	0.07174	0.18581	0.16982	0.23986
Q 0 2	0.07961	-0.02468	0.01432	0.52742	0.08144	-0.03172	0.00444	-0.05086	-0.04377
Q 0 3	0.59729	0.02463	0.16140	0.05864	-0.03736	0.07946	0.04708	0.16123	-0.05389
Q 0 4	0.55561	0.26105	0.08070	0.09534	0.04425	-0.02991	0.08665	-0.08432	-0.04334
Q 0 5	0.49928	-0.05096	0.11880	-0.00171	0.16987	0.06545	0.27290	-0.03320	0.02285
Q 0 6	0.26446	0.24023	0.14311	0.07060	0.13068	0.07384	0.65070	0.03058	0.06214
Q 0 7	0.19463	0.18180	0.10563	0.21255	0.39970	0.08533	0.29200	0.14681	0.07931
Q 0 8	0.18996	0.28132	0.08038	0.10595	0.15236	0.08667	0.51323	-0.00554	-0.04017
Q 0 9	0.13473	-0.14157	0.03475	0.49313	-0.02715	-0.17032	-0.03102	-0.32616	-0.04674
Q 1 0	0.11105	0.14651	0.04610	0.35923	0.43269	-0.04466	0.09671	0.06086	0.12406
Q 1 1	0.09432	0.02230	0.02922	0.58489	0.16277	0.03920	0.04572	0.23103	0.06005
Q 1 2	0.40154	0.04677	0.18054	0.17489	0.33864	0.02068	0.18124	0.22745	0.05856
Q 1 3	0.53036	0.17191	0.08598	0.15156	0.17600	-0.02662	0.12642	-0.09648	0.07260
Q 1 4	0.51205	-0.00838	0.13343	0.04579	0.13149	0.13029	0.09565	-0.11244	0.09921
Q 1 5	0.75145	0.14950	0.16270	0.11788	0.07254	-0.03383	0.09081	0.20156	0.02474
Q 1 6	0.21636	0.16395	0.71454	0.07954	0.04184	-0.04580	0.08752	0.02431	0.08203
Q 1 7	0.07163	0.61646	0.12612	0.05934	-0.03978	0.08241	0.08211	0.07972	-0.00248
Q 1 8	0.43679	0.13101	0.28014	0.04787	0.07120	0.04408	0.07961	0.36581	-0.00154
Q 1 9	-0.02564	0.09172	0.02039	0.33018	0.00382	0.09806	0.04428	0.00268	-0.08531
Q 2 0	0.37055	0.12922	0.34251	0.19023	0.22692	0.09286	0.10762	0.19684	-0.28481
Q 2 1	0.36012	0.15566	0.21806	0.14305	0.33951	-0.04934	0.12489	-0.09744	-0.05060
Q 2 2	0.24480	0.06920	0.03589	-0.07931	0.00574	0.30029	0.19685	0.13001	0.00359
Q 2 3	0.05042	0.45114	0.06038	-0.03182	0.22660	0.04180	0.14166	-0.03795	-0.13442
Q 2 4	0.16760	0.74616	0.04737	0.05744	0.07203	0.08914	0.09279	0.05075	0.09552
Q 2 5	0.12361	0.46500	0.22991	-0.00735	0.21540	-0.00326	0.08211	0.02803	0.03724
Q 2 6	0.17249	0.02305	0.04599	0.07587	0.46192	0.11777	0.07559	0.03743	0.02060
Q 2 7	0.58458	0.12121	0.00894	0.03428	0.28424	0.08122	-0.04587	-0.13852	-0.01691
Q 2 8	0.55411	0.26522	0.25089	0.09278	0.10817	0.13753	-0.03643	0.28389	-0.01639
Q 2 9	0.06977	0.32022	0.05836	0.08468	0.45645	-0.03092	0.00267	-0.10105	-0.10402
Q 3 0	0.21501	0.17311	0.75046	0.09986	0.05239	0.02612	0.03450	-0.04429	0.03212
Q 3 1	0.24429	0.30708	0.16916	0.16821	0.37533	0.00817	0.08721	0.04326	0.34118
Q 3 2	0.44728	0.06749	0.28256	0.04345	0.04067	0.10639	0.09526	0.01616	0.11303
Q 3 3	0.25364	0.05754	0.28079	0.27578	0.10620	0.06140	0.03102	-0.21076	0.07800
Q 3 4	0.31075	0.09323	0.60077	0.12264	0.14137	0.05115	0.12164	0.13707	-0.07163
Q 3 5	0.15194	0.10437	0.06062	0.06043	0.01338	0.83980	0.01426	-0.05208	-0.03410
Q 3 6	0.29805	0.09589	0.34885	0.10095	0.19828	0.28379	0.03688	0.05895	-0.21318
Q 3 7	0.03751	-0.02747	0.21441	0.49222	0.01388	-0.25401	-0.01528	-0.02419	0.09306
Q 3 8	0.00977	0.02674	-0.00235	-0.10470	0.06536	0.71769	0.05144	0.03989	0.03799
Q 3 9	0.29761	0.47071	0.07869	0.21092	0.18600	0.02462	0.11033	0.01312	0.30158
Q 4 0	0.11320	0.19189	0.11640	0.39735	0.19427	-0.04013	0.04896	0.00926	0.15190